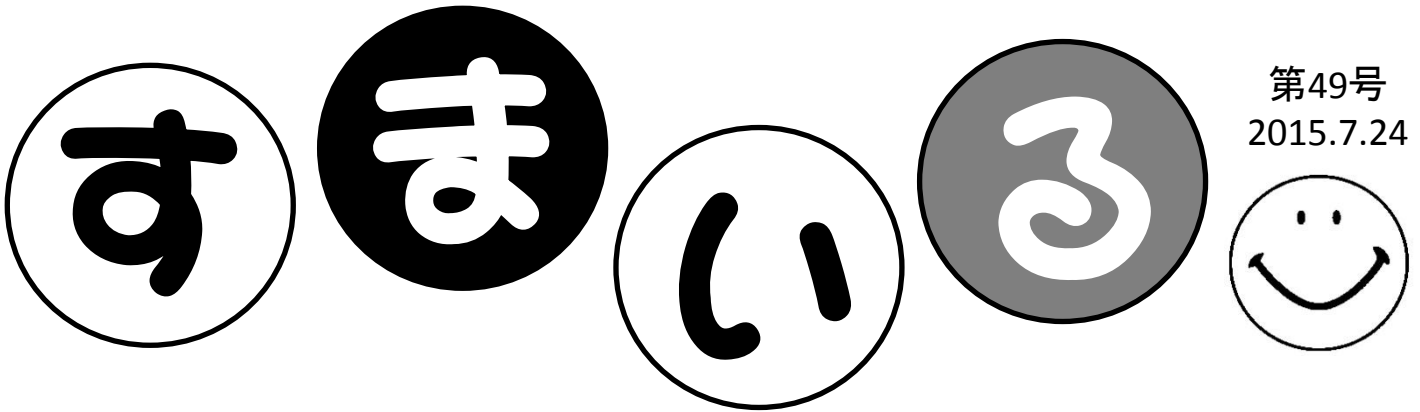


板橋区子育て支援者・支援員通信誌

第49号  
2015.7.24



ニッポンの夏。  
子育て支援の夏。



特集

グッド・トイから学ぶ

子どもにおすすめのおもちゃ・選び方 ..... P2

すまいる ガイド① :子育て支援員・子育て支援者 お役立ち情報  
「東京おもちゃまつり 2015」「子育て支援パワーアップセミナー」..... P5

すまいる ガイド② :守ろう!子どもの安全・事故防止  
「溺水」(水に溺れたとき) ..... P6

サポステ研修会のお知らせ ..... P8



ご参加ください

サポステ研修会

予定表に  
チェック!!

2015年8月30日(日)

時間 10:00~12:00

場所 板橋区立グリーンホール  
504会議室

詳しくは裏表紙(P8)をご覧ください

サポステ研修会

『あっ!!』というときの

子どもたちのよくあるちょっとしたケガや健康トラブル  
対処法

講師:板橋健康福祉センター 保健師 佐藤恵美さん

子どもたちの日常にありがちな健康トラブルやケガなど、  
『あっ!!』というときの対処法を学びます。知識を深めて、  
安心して子育て支援を行いましょ。

※参加ご希望の方は、研修会当日、直接会場へお越しください。(会場受付:9時40分~です)

安心の  
子育て支援

# グッド・トイから学ぶ 子どもにおすすめの おもちゃ・選び方



『グッド・トイ』をご存じですか？

NPO法人日本グッド・トイ委員会にて、おもちゃコンサルタントによる

選考運営委員およびグッド・トイ選考委員によって、優良なおもちゃとして選定されたものを『グッド・トイ』といいます。毎年、たくさんのおもちゃが発売され、世の中にはさまざまなおもちゃが出回っています。そのような市販のおもちゃの中から優良なおもちゃ選びの指針となるよう、1987年にグッド・トイ選定制度はスタートしました。

グッド・トイに選定されたおもちゃには『グッド・トイマーク』をつけることができるので、消費者のおもちゃ選びの目安にもなります。

今回は、子どもたちにおすすめのおもちゃと選び方について、おもちゃインストラクタそして赤ちゃん木育サポーターでもある藤井純子さんにお話を伺いました。



世界中で愛されるおもちゃ『けん玉』をモチーフにしたグッド・トイマーク

## 😊 優良なおもちゃ、3つの方針と6つのポイント

### 3つの方針

#### ①健全なおもちゃ

安全性への配慮。暴力行為などを連想されるものではない、暴力的でないもの。

#### ②ロングセラーおもちゃ

流行を求めた一過性の楽しさではなく、ロングセラーのおもちゃとしての可能性を評価。

#### ③遊び・コミュニケーション尊重おもちゃ

知育・早期教育への偏重を慎重に取り扱い、ユニバーサルな遊びとコミュニケーションを尊重した選定。

子どもたちの成長過程に、おもちゃは欠かせないアイテムです。子どもたちは夢中になっておもちゃで遊びながら、限らない想像力をひろげていきます。近年、技術的な進歩によって精密機器のようなおもちゃも登場しています。多種多様、さまざまなおもちゃが世の中に出回っているからこそ、おもちゃ選びに迷うこともあるでしょう。

グッド・トイの選定にあたっては、左記の3つの方針と6つのポイント(①心地よい音、②動きのバリエーション、③感触の良さ、④適度な大きさと重さ、⑤美しい色と形、⑥丈夫で壊れにくい)が挙げられます。安全で美しく、子どもが自由かつ主体的に遊ぶことができるおもちゃが良いとされています。

例えば、金属のものと木製のものに触れて比べてみると、肌さわり、質感、温かさなどの感じ方が異なります。金属のものは硬く、ひんやりしていて、無機質な感じですが、木は独特のぬくもりや匂い、重量感を味わうことができます。どちらかが良いと決めつけるものではありませんが、幼いうちにできるだけ自然素材のものに触れて、さまざまな感触や音、匂いなどを体験して欲しいものです。また、子どもが自分で自由に動かし、人と関わりながら遊ぶことができる、いわゆるアナログ的なおもちゃがおすすめです。おもちゃに遊んでもらうのではなく、子どもが自由におもちゃを扱い、自分なりのルールを作り、創意工夫できることによって、感性が刺激されていきます。そういう観点からも、木製や布製のおもちゃが良いとされています。布製のおもちゃであれば、手作りもできるでしょう。大人も子どもたちといっしょに、おもちゃを楽しむことができます。



## 赤ちゃんの遊びとおもちゃ

赤ちゃんの遊びは、成長や発達に応じて、どんどん変化していきます。物を投げたり、口に入れようとしたり…、危ないと思うような行動は成長のサインであることも。あたたかい目で成長を見守りながら、赤ちゃんといっしょに遊ぶ時間を楽しむことが大切です。

### 赤ちゃんの遊びのポイント

#### 生後2カ月～

##### ★音を楽しむ

生まれたばかりのころは、刺激が少なくゆったりと安定した環境がよいでしょう。あたたかでやわらかい木のおもちゃの音色で、耳を澄ます時間を大切にしましょう。

##### ★ゆっくり・ゆったり

スピード感のあるおもちゃよりも、ゆっくりと動いて、赤ちゃんが目で追いやすいものがおすすです。手でゆっくり動かしてみせるとよいでしょう。

##### ★おしゃぶりで口内刺激を

赤ちゃんはなめたり、しゃぶったり、くわえることで、モノを認知し、好奇心を刺激します。なめても安全なものを選びましょう。

#### 生後6カ月～

##### ★握る・引っ張る・投げる を大切に

おすわりができるようになるころには、さまざまな動作を楽しめるようになります。一見、乱暴に扱っているような動作も、成長のサインです。

##### ★素朴なおもちゃで想像力を使う

シンプルな形、色合いのおもちゃは、何かに見立てて遊ぶのにはぴったりです。凝ったつくりや派手なものでないシンプルな木のおもちゃは、子どもの想像力を広げてくれるでしょう。

赤ちゃんの  
うれしい!たのしい!  
を共感しながら  
大人もいっしょに  
楽しめるとよいですね!!



#### 1歳～

##### ★関わりながら遊ぶこと

お友だちと関わりながら遊びはじめる時期は、おもちゃの取り合いになることも。この時期の子どもにとって、おもちゃは自分の一部であると感じているものです。強く叱ったり、無理に取り上げたりせず、大人同士で話し合い、じょうずに貸し借りができるとういでしょう。

##### ★ひとりあそびも大切に

ひとりで楽しく遊んでいるときは、無理に介入せず、自分の世界を楽しんでいる様子を見守るとよいでしょう。

##### ★くりかえしを楽しむ

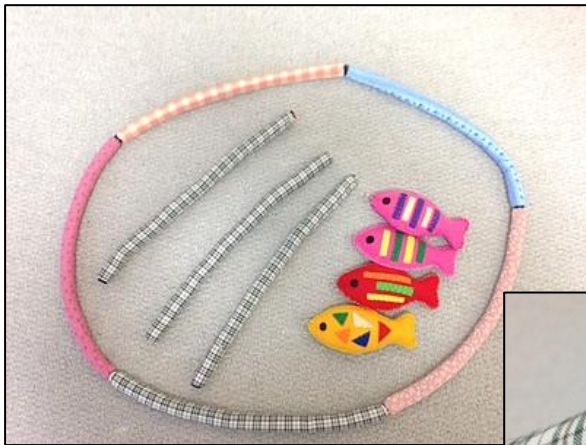
2歳くらいになると、同じ動作を繰り返して遊ぶようになります。子どもたちは、自分の発見を何度も繰り返して確認したいのです。大人も一緒に楽しみましょう。



## 知育玩具は必要か？

よく『知育玩具』という言葉を目にしますが、実は、『知育玩具』ということばの定義は曖昧で、消費者を引きつけるための売り手側の戦略であることも少なくありません。子どもたちは日々の生活の中で、言葉や動作を覚えていきます。やりとりのなかで、面白さを味わうことが出来るのです。本当に良いおもちゃとは、子どもの知識を追い詰めるものであってはならないはずです。シンプルで素朴なものを、子どもたちは自由に、自分の意思で遊びを発展させることができれば、イマジネーションは無限に広がり、コミュニケーション力を喚起してくれることでしょう。大切なことは、大人が積極的に遊びに関わることです。子どもといっしょに、遊びの世界を楽しむことです。子どもは自分をまるごと受け止めてくれる安心感の中で、豊かな感性を広げていくことが出来るのです。ですから『知育』や『早期教育』というような言葉に頼らず、子どもたちとの自由な時間を楽しむことを大切にしてください。

グッド・トイに選ばれたおもちゃは、どれもシンプル。おもちゃを扱う子どもたちが主人公です。シンプルなおもちゃであれば、大人の楽しい発想でオリジナルのものを作ってみてはいかがでしょうか。以下にご紹介するおもちゃは、どれも手づくり。しかも簡単に作れるものばかりです。愛情たっぷりの手づくりおもちゃで、子どもたちといっしょに『楽しい』を味わってください。



布の棒の両端には、布で覆った磁石が縫いつけてあります(写真参照)。つなげて輪をつくると、たちまち池が完成。口先にクリップをつけた魚釣りに挑戦です!!

長くつなげたり、遊び方はさまざまです。

丸い磁石を布で包み縫い付けています。



モコモコ手袋の指の部分をカットして、ほつれないように縫い、指先の部分に目と鼻と触角をつけたら、いもむしくんの指人形が出来上がり!!

## 手づくりおもちゃ いろいろ

手袋の指先に縫いつけているのは、アンパンマンキャラクターのアプリケ(市販品)。たちまち指人形に変身です。



布で作ったドーナツ。積み上げて遊んだり、穴にひもを通して遊んだり、数かぞえで楽しんだり、遊びは限りありません。

東京おもちゃ美術館主催★日本中の遊びのプロが集結 年に一度の大祭り

## 東京おもちゃまつり 2015

東京おもちゃまつりは、全国のおもちゃコンサルタントを中心に、木のおもちゃを扱うメーカー自治体、さらには大道芸人から遊びに関わる企業まで、総勢100団体以上の参加者が繰り広げる、一年にたった2日しかないおもちゃの大祭典です。

今年度の開催は、2015年10月17日～2015年10月18日 10:00～16:00 を予定しています。

- 場所 東京おもちゃ美術館(東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内)
- 入場料 子ども(3歳以上小学生まで)700円 大人(中学生以上)1,000円
- 問い合わせ先 認定NPO法人日本グッド・トイ委員会 03-5367-9601

※今号の特集でもとりあげた優良なおもちゃがたくさん紹介されます!!

公益財団法人 日本女性学習財団 主催  
特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所共催2015年度「こどもパートナー」認証講座

## 子育て支援パワーアップセミナー 今だから！地域でいかそう、あなたのチカラ

こどもを取りまく環境が変化し、こどもの成長をサポートするには、親や教師だけではなく、幅広い人材が求められています。本講座では、こどもの理解やこどもの育ちを支える大人の役割などについて、講義やワークショップを通して学びます。こどもと関わる活動に関心がある方、取り組んでみたい方、日頃の活動をふり返りたい方、是非ご参加ください！(※先着順の申込につき、締め切りの場合、ご容赦ください)

- 日時 2015年8月20日(木) 9:30～15:30(昼休憩 12:00～13:00)
- 内容 講義…支援者とは？(鈴木聡：東京学芸大学准教授)  
講義…こどもを取りまく環境(米田佐知子：子どもの未来サポート オフィス代表)  
講義/ワークショップ…こどもの理解・こどもへの接し方(安部芳絵：工学院大学准教授)
- 対象 地域や学校でこどもを支援する活動に取り組みたい方、実際に取り組んでいる方、取り組みに関心をお持ちの方
- 定員 30名(先着順)
- 受講料 5,000円
- 認定 全科目受講者は「こどもパートナー」認証(くわしくはホームページでご確認ください)が取得可能になります。
- 会場 日本女子会館5階 大会議室(東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館5階)
- 申込方法 ホームページ <http://www.jawe2011.jp/child/child2015.html>  
電話(03-03434-7575) メール [jawe@nifty.com](mailto:jawe@nifty.com)
- 主催 公益財団法人 日本女性学習財団
- 共催 特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所

## 保険期間は4月1日～ 未加入の方はぜひ加入しましょう \* ボランティア保険のご案内 \*

ボランティア保険は、子育て支援だけでなくすべてのボランティア活動に対して保障される保険です。

保険期間は、4月1日0時～翌年3月31日24時までの1年間。いつからでもご加入できます。

ボランティアをはじめめる前に、入っておきたいあなたの大切な「お守り」になる保険です。ぜひ加入しましょう!!

※保険料は基本的なプランで300円～

お問い合わせ、お申し込みは「いたばし総合ボランティアセンター」まで。

\*いたばし総合ボランティアセンター 住所:本町24-1 電話:03-5944-4601

子育て支援で最も大切な子どもの安全管理。日本小児看護学会から発行されている「子どもの事故防止ノート」から、子どもの事故防止に役立つ情報をお伝えします。今回は、お風呂やプール、水遊び中に起きる恐れのある「溺水(できすい)」について、気をつけておきたい状況と、対策をお伝えします。

出典「子どもの事故防止ノート」日本小児看護学会 健やか親子21推進事業委員会

#### こんなケースがあります!! 例①

##### 浴槽の蓋がずれて浴槽に転落してしまった!

生後10か月のAちゃんとお母さんが一緒にお風呂に入っていました。

お母さんが洗髪している間、Aちゃんはお風呂の蓋に乗せられていましたが、お母さんが3~4分目を離れた間に、お風呂の蓋がずれて浴槽に転落してしまいました。

#### こんなケースがあります!! 例②

##### ため池で遊んでいて溺れてしまった!

小学3年生と2年生の男の子3人が、家の近所のため池のフェンスを乗り越えて、池で遊んでいるうちに溺れてしまいました。

#### こんなケースがあります!! 例③

##### 家族が目を離れた際にプールで溺れてしまった!

3歳のBくんが、家族と市民プールで遊んでいました。Bくんは子ども用プールで遊んでいましたが、家族がトイレに行っている間に大人用プールに入り、溺れてしまいました。

## ◆◇どうしてこんなことに… どんなどころに注意したらいい? ◇◆

#### 例①の場合

小さな子どもの溺水事故は、その多くが家庭内のお風呂で起きています。大人と一緒に入っていても、身体を洗ったり、洗髪をしたりするなどの、ほんの少し(2~3分!)目を離れた際に溺れてしまいます。お風呂は子どもがひとりで入ることがないようにし、また、入浴中は目を離さないように気をつけましょう。お風呂の扉は常に閉めておく、子どもの手の届かない所に鍵を取り付けるといった工夫も必要です。また、残り湯を溜めない、浴槽の蓋を固い材質にすることも事故予防に有効です。

#### 例②の場合

好奇心旺盛な学童期の子どもたちは、危険な場所での探検・冒険が大好きです。ため池や用水路は浅瀬から急に深くなる箇所もある上、梅雨の後の夏場は水位が高くなり、大変危険な場所です。ため池や用水路の近くで遊ばないように、家庭ではもちろん、地域ぐるみで注意しましょう。

#### 例③の場合

プールは大変楽しい場所ですが、同時に危険がいっぱいなところでもあります。賑わっていると、たくさん人がいるから大丈夫と油断しがちですが、逆に目が届きにくくなります。小さな子どもは特に、大人が常にそばにおり、目を離さないように気をつけましょう。

**注意!!**

## 濡れやすいところ

海・プール・川・池・用水路はもちろん、乳幼児の場合は、家庭の中での事故が多く発生しています。

### \* 家庭の中で濡れやすいのは

○お風呂    ○水槽    ○ビニールプール    ○洗面台    ○洗濯機    ○バケツ    ○トイレ  
など

## もし、溺れているのを発見したら...

- ★ すぐに水から引き上げましょう。
- ★ 意識・呼吸を確認しましょう。
- ★ 人手が必要ですので、すぐに誰かを大きな声で呼びましょう。
- ★ 意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう。
- ★ からだが冷たかったら、タオル等でくるんで保温しましょう。
- ★ 意識がすぐに戻っても、肺炎などを起こす可能性もありますので、医療機関を受診しましょう。

病院受診や相談の際には...

『いつ』『どこで』『どのくらいの時間』溺れていたのか、意識・呼吸の有無、その際の対処がどのくらいの時間でどのように行われたのかが大切です。

慌てず、落ち着いて行動し、チェックしておきましょう。

## 予防が大切です!!

- 溺水の事故は、ほんのわずかな時間、目を離した際に起こっています。乳幼児は特に、水の近くでは目を離さないように気をつけましょう。
- 子どもは水深が5cmあれば、溺れてしまう可能性があります。水流が穏やかであっても、また、少しの水でも危険ですので、十分に注意しましょう!
- 小学生・中学生になると、家庭内の事故は減りませんが、海や川、池、プールなどの屋外での事故が多くなります。普段から水の危険性を意識づけ、なぜ危ないのかを家庭内で話しておくことが大切です。





ご参加ください〜♪

## サポステ研修会

### 『あっ!!』というときの

子どもたちのよくあるちょっとしたケガや健康トラブル

### 対処法

講師

板橋健康福祉センター 保健師 佐藤恵美さん

## 日時

2015年8月30日(日曜日)

10:00~12:00

(9:40~会場受付)

場所 板橋区立グリーンホール

504会議室

お子さんのお預かり中に起こる『あっ!!』というようなこと。

たとえば、「虫に刺されて赤くはれ上がった」「急に嘔吐した」「いきなり鼻血がたくさん出た」などなど…。

大きな病気やアクシデントではなく、日常の中で起こりうる子どものケガや健康トラブル。

ちょっとしたことでも、対処法を知っておくと、安心して子育て支援を行うことができます。

今号はすまいるガイドで『溺水』を取り上げましたが、子どもを預かる者にとって、トラブル回避の知識は安心のために非常に大切です。

サポステ研修会の開催日8月30日は、まだまだ猛暑が続いていると予想されます。どうぞお気をつけてお越しいただき、有意義な時間を過ごしましょう!!

※参加ご希望の方は、研修会当日、直接会場へお越しください。(会場受付:9時40分~です)

### 発行 子育て支援員活動サポートステーション

(NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし)

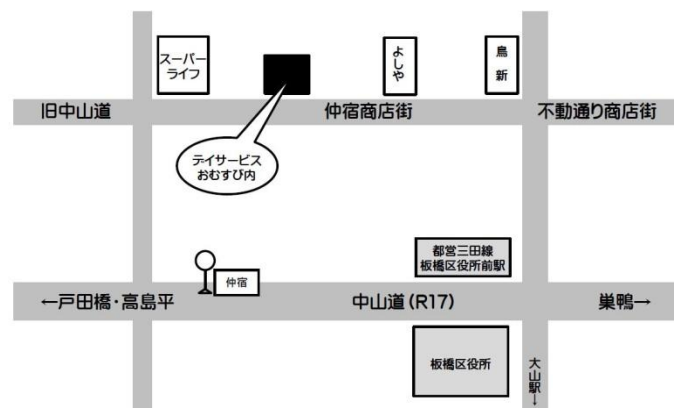
〒173-0005 東京都板橋区仲宿45-6

デイサービスおむすび内

ホームページ <http://www.saposute.info>

メールアドレス [info@saposute.info](mailto:info@saposute.info)

TEL & FAX 03-5943-1888



## 編集後記



長雨がやんだら猛暑がやってきました。今年のいたばし花火大会は8月1日だそうです。今年の記憶も鮮やかなまま、あっという間に花火大会の時期になりました。夏といえば、水の事故が多発します。そんな心配もあり、子どもの日常にある『ヒヤリハット』を意識した第49号になりました。子どもの安全は大人の責任。目が離せず大変ですし、リスクを考えると不安ばかりがつのりますが、知識で安心に変えることができるのではないかと思います。8月30日のサポステ研修会を企画しました。子どもだけでなく、大人の「ヒヤリハット」にも有効です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。(編集担当:岡本・野邊)